

# ジオパーク推進特別委員会行政視察報告書

令和5年11月30日

つくば市議会議長 五頭 泰誠 様

ジオパーク推進特別委員長 神谷 大蔵  
(公印省略)

本委員会は、下記のとおり行政視察を実施したので、報告します。

## 記

### 1 視察期間

令和5年10月23日(月)から令和5年10月24日(火)まで

### 2 視察先及び視察事項

#### (1) 神奈川県箱根町

・箱根ジオミュージアムについて

#### (2) 静岡県伊豆市

・伊豆半島ジオパークミュージアム「ジオリア」について

### 3 視察目的

本特別委員会所管に係る上記事項について調査研究し、本市のジオパーク推進行政の発展に寄与する。

### 4 参加者 計9名(委員7名、議会局(随行)2名)

委員長 神谷 大蔵

副委員長 中村 重雄

委員 川久保 皆実、黒田 健祐、皆川 幸枝、塚本 洋二、  
小野 泰宏

議会局 浅野 公彦、藤代 拓

## 5 研修内容

### (1) 神奈川県箱根町【10月23日（月）説明：箱根ジオミュージアム】

「箱根ジオミュージアムについて」

箱根町では、箱根ジオミュージアムの現地視察を行い、詳細な説明を受けた。

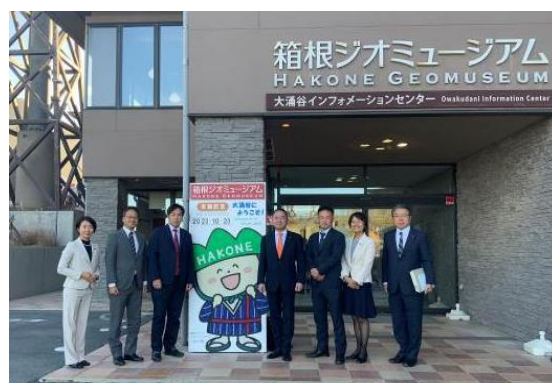
箱根ジオミュージアムは、町立の大涌谷自然科学館の後継施設として計画されたものであり、箱根ジオパークの拠点施設として2014年に設置された。

施設の中心部にGEOホールというスペースを設けており、火山を由来とした箱根ジオパークの自然・歴史について、大涌谷や芦ノ湖といった地点を中心として展示したり、豊かな恵みとの背中合わせである火山の驚異について紹介したりする場所となっており、箱根地区の魅力を統一されたデザインとともに楽しむことができるようになっている。

ほかにも、巨大な箱根地区3D立体地図や、温泉の湯採取の様子を体験し学ぶことができる展示のある区域や、乳幼児子育て世代向けに自然・火山にまつわる絵本が配置された部屋もあり、各世代の学びに通じるための配慮がなされていた。拠点施設以外においても、出張授業による地域学習やジオパークサポーター活動等を通じて連携し協力を行っている。

また、学術交流の一環として国立研究開発法人防災科学技術研究所から「揺れてるネット」の提供を受けており、施設内のモニターで箱根内各地区の揺れをリアルタイムで見ることが可能である。

課題としては、オーバーツーリズムによる外国人来館者増への対応や火山ガスによる機械類の故障といった箱根ならではの問題に加え、箱根ジオパークを構成する各地域の取組に対する温度差といったどのジオパークにも共通した課題を有しており、同ジオパーク内の他箇所へ向かってもらう周遊観光の取組を進めることで課題解消を図っている。



(2) 静岡県伊豆市【10月24日（火）説明：伊豆半島ジオパーク推進協議会】  
「伊豆半島ジオパークミュージアム『ジオリア』について」

伊豆市では、伊豆半島ジオパークミュージアム「ジオリア」の現地視察を行い、詳細な説明を受けた。

ジオリアは、2018年に世界ジオパークとしてユネスコから認定を受けた伊豆半島ジオパークの拠点施設であり、2016年から開所し運営している。

施設内にあるシアターでは、日本列島で唯一フィリピン海プレート上に位置する伊豆半島が、元々遠い南方の火山島でありプレートとともに北に移動し本州と衝突して現在の日本列島となった歴史を映像で学ぶことができ、日本列島において伊豆半島が特異な地理を有することが良く分かるものだった。ほかにも、伊豆半島の立体模型上にプロジェクションマッピングを行い伊豆半島各地の地理の特徴を浮かび上がらせる展示や、台上に配置された特製の砂の中に水を流すことで、川の流れによる扇状地や河岸段丘の形成をシミュレートできる装置など、世代を問わずジオを学ぶ工夫がなされていた。

ジオリアは、一般社団法人美しい伊豆創造センターにより運営されており、法人内のジオパーク委員会が、伊豆半島ジオパークに関する事務局となっている。管理運営計画のもとジオリアを運営し、来場者を年1万目標としていたところ、2022年は12,350人となった。

伊豆半島ジオパークでは、基本計画・行動計画を策定しており、ユネスコの規定や意見を反映しながら各種活動を行っている。ジオガイド養成講座や、国際的なジオパークネットワークへの参加を含め様々な事業に対応している。

2022年12月世界ジオパーク再認定の際にも、事務局が中心となって現地審査等に対応し、約180人のジオガイド等と協力してユネスコの審査員に周知を行った。



## 【行政視察所感欄】

11月3日に開館した、筑波山地域ジオパークの中核拠点施設「つくばジオミュージアム」について、ジオパーク推進特別委員会から9月5日に提言書を市長に提出したが、同施設の更なる充実のための知見を深めることを目的とし、行政視察を実施した。

今回の視察に際しては、提言の内容を踏まえ施設内の展示や整備を調査すると同時に、スタッフの対応や説明内容についても観察を行った。

箱根ジオミュージアム及び伊豆半島ジオパークミュージアム「ジオリア」ともに拠点施設として国内を代表する施設であった。施設においてはともに体験型の展示が多く、これらの展示に触れることで各地域のジオパークの特徴を感じることができた。また、案内スタッフもジオの成り立ちや展示内容を熟知しており、話を聞くにつれ理解が深まった。

今回の視察をとおし、つくばジオミュージアムは、今後、展示の充実、案内スタッフの育成はもとより、学术交流など「つくばの地の利を生かした発信」を工夫してほしいと感じた。

加えて、特別委員会としても今後、国内ジオパーク施設についての知見をより深めると同時に、様々な取組についても見識を広げ、更に筑波山地域ジオパークの振興に注力していくべきと感じた。

ジオパーク推進特別委員長 神谷 大蔵